

[成果情報名]へベスの1年生枝付き苗木は1年生苗木に比べ樹冠拡大と初期収量に優れる

[要約]へベスは、1年生枝付き苗木が1年生苗木よりも樹冠拡大に優れ、着果開始より3年間の収量は2年生苗木と同等以上が見込める。樹齢が同じ場合でも枝付き苗木は樹冠容積が大きく、収量も多いため、早期成園化に適する。

[キーワード]香酸カンキツ、苗木、仕立て法、樹冠拡大、初期収量

[担当]宮崎県総合農業試験場・果樹部

[代表連絡先]電話 0985-73-2121

[分類]研究成果情報

[背景・ねらい]

宮崎県内で栽培されている香酸カンキツのへベスは、需要の高まりから、県内全体へ産地拡大が図られている。現在用いられているカンキツの苗木は、通常1年生または2年生の苗木が流通しているが、キンカンでは1年生の枝付きの苗木も流通している。そこで、へベスにおいて、苗木の仕立て法及び養成年数を検討することで、樹冠拡大や収量等早期成園化に適した苗木について明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 定植1年目に発生した新梢数は、2年生苗木が最も多く、1年生枝付き苗木、1年生苗木は同程度である(表1)。
2. 定植2年目に発生した新梢数は、夏枝数が2年生苗木で1年生枝付き苗木及び1年生苗木より有意に多いが、合計新梢数は2年生苗木及び1年生枝付き苗木が1年生苗木よりも有意に多い。そのため、樹冠容積は2年生苗木及び1年生枝付き苗木で1年生苗木に比べて大きい(表1)。
3. 樹冠容積は、1年生枝付き苗木が順調に拡大し(表2)、3年間の積算した収量は、2年生苗木と同等以上である(表3)。

[成果の活用面・留意点]

1. 農業試験場(宮崎市佐土原町)に2017年3月に植栽したへベスを開心自然形に仕立て、1区1樹6反復の試験結果である。導入した苗木は苗木業者が仕立てたものを用いた。
2. 枝付きの苗木(図1)を販売できる業者が必要となる。
3. 他のカンキツ類の苗木への応用が期待できる。



図1 定植1年目の1年生枝付き苗木の春枝硬化後(2017年7月撮影)

[具体的データ]

表1 定植1年目の新梢発生状況及び2年目の新梢発生と樹冠容積

試験区	定植1年目 (2017年)				定植2年目 (2018年)			
	春枝数 (本)	夏枝数1回目 (本)	夏枝数2回目 (本)	合計枝数 (本)	春枝数 (本)	夏枝数 (本)	合計枝数 (本)	樹冠容積 (m ³)
2年生苗木	25 a	21 a	34	79 a	87	93 a	179 a	2.0 a
1年生枝付き苗木	15 b	12 b	21	47 b	81	64 b	145 a	1.8 a
1年生苗木	10 b	13 b	21	44 b	41	54 b	94 b	0.6 b
有意性 ^z	*	*	n.s.	*	n.s.	*	*	*

^z*は Tukey にて異英文字間に有意差 (P<0.05) を示す。

※新梢は、2017年は硬化後の5月29日、7月21~24日、9月11~20日、2018年は5月15日、7月25日に調査した。樹冠容積は11月2日に調査し、長径×短径×高さ×0.7で算出した。

表2 定植3年目からの樹冠容積の推移

試験区	2019年	2020年	2021年
2年生苗木	3.4 a	5.6 a	6.8 ab
1年生枝付き苗木	3.2 a	5.8 a	8.0 a
1年生苗木	1.4 b	3.7 b	5.3 b
有意性 ^z	*	*	*

^z*は Tukey にて異英文字間に有意差 (P<0.05) を示す。樹冠容積は長径×短径×高さ×0.7で算出した。

表3 着果開始から3か年の累積収量

試験区	収量	
	(kg)	(個)
2年生苗木	18.2 ab	369 ab
1年生枝付き苗木	19.3 a	376 a
1年生苗木	11.2 b	232 b
有意性 ^z	*	*

^z*は Tukey にて異英文字間に有意差 (P<0.05) を示す。

(山名 宏美)

[その他]

予算区分：県単

研究期間：2017~2021年

研究担当者：山名宏美

発表論文等：

- 1) 山名宏美 (2022) 園芸学会九州支部研究集録 第30号 p.12